



生活環境改善工事の検証は

町長＝課題噴出の悩み多き事業

問 年金暮らしの人や高齢者を優先する指示は。

町長 各地域の申請件数に応じた割合及び工種件数に応じた割合で選定し、さらに高齢者に配慮した介護保険による改修や高齢者にやさしい住まいづくり助成事業の交付決定を受け合併施工を予定している工事等の交付を決定しました。

問 複数年かけて全世帯を対象に実施すべきと思うが、町民に対し公平な事業と考えますか。

町長 この事業はとても悩める事業と考えます。ほとんど無条件の中で実行するという状況の中、精一杯考え決定しました。地元雇用の拡大と地域の活性化、さらに町民

の住宅環境改善を目的とした事業で、できるだけ公平性を考慮しました。予想以上に申請

が多く実施には課題が多く噴出し反省しています。

テレビ会議システムの活用は

町長＝将来的課題

問 広大な本町は端から端まで移動するのに1時間以上かかり、車での移動は交通事故の危険もあり雪道は特に危険です。

は議会中継や職員向けの各種行事を放映するためのもので一方からの配信しかできないため、テレビ会議は不可能です。

町長 町は昨年議会中継システムを導入し、3支所と御蔵入交流館に同時放送しており、このシステムを使いテレビ会議が容易にできます。各総合支所長が移動することなく重要な会議に参加できるこのシステムの活用に対する町長の考えは。

町長 現在のテレビ中継システム



各地域に映像を配信する議会中継システム

地区ごとの事業カルテの作成は

町長＝整備状況の把握が可能になる

問 各地区からの要望が実施となる日を住民は何時かいつかと待ちわびています。カルテを作成すれば地区間の実施時期が明確になり、地区住民は希望がもて安心が得られます。

これは地区ごとの事業履歴書であり、担当職員が異動してもリセットされずに継続される重要な施策と思うが町長の考えは。

町長 町全体の整備状況の把握が可能になるというメリットはありますが、一方カルテが一人歩きすることで画一的事業が予算の硬直化を招く危険性もあり、地域協議会を含めた関係機関と調整しながら均衡ある事業を行ないます。